

加飾技術研究会 Letter No.17 (2014.7.1)

事務局 平野技術士事務所 105-0003 東京都港区西新橋二丁目8番1号 ワカサビル
創造工学研究所内 ☎/FAX 03-3504-2600 e-mail info @ ce-hirano.com

www.kasyoku.org info@kasyoku.org

製品類、部品類などの最終加工は加飾処理である。工業製品を「商品」として価値あるものに仕上げるのは、加飾技術である。近年、環境に優しく、あらゆる負荷が小さい加飾技術が求められている。我々は、社会の要請に対して真摯に取り組み、優れた加飾技術について調査・研究・開発等を積極的に進め、社会・経済発展に寄与すべく加飾技術研究会の活動を展開するものである。

加飾技術の実現する個性化と高収益

(代表理事 平野輝美)

消費税が8%になって3ヶ月が経過しました。この増税ですが、日本経済に対する影響として様々なご意見がありました。果して、日本経済に好ましくない影響があったのでしょうか？マクロ経済として考えるなら、間接税は中立の影響のように思うのですが、いかがなものでしょうか。すなわち、徴収された税は、結局のところ行政における消費として経済に影響するのですから。

加飾のトレンド

前号では、最近よく耳にする加飾の4つのトレンドについて高収益の観点からご紹介いたしました。次の4つです。

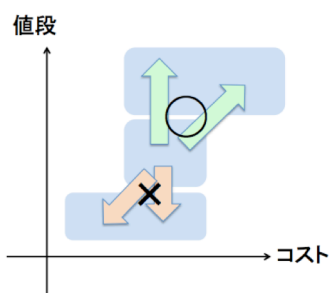
金属調

フィーリング（感触）

個別化（個性化）

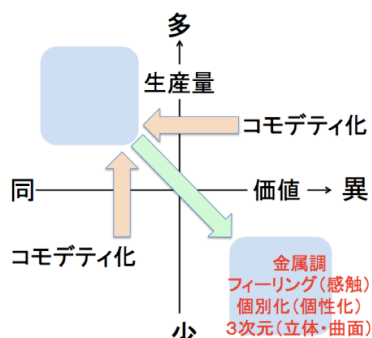
3次元（立体、曲面など）

このようなトレンドに注目が集まるのは、経済の原則として第1図のような変化に対してインセンティブが働いているからでしょう。すなわち、同じコストで値段の高いものを売りたい、もしくはコストが上がっても値段の高いものを売りたいと願うことになります。いずれにしても、『高く売ること』が重要でしょう。高く売れば、収益もまた期待できるので。でも、第1図にご紹介するように、好ましくない変化もまた同時並行的に起こり得ます。



第1図 販売環境の推移

第2図に変化のトレンドをまとめてみました。近年のボーダーレス・ワールドワイド・ネット化によって『全ての商品



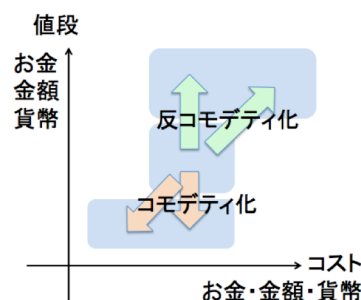
第2図 販売環境の変化

コモデティ化と値段・コスト平面

第1図に示した好ましくない変化はコモデティ化でしょう。そして、好ましい変化は反コモデティ化として示されるでしょう。第3図に示すようになります。第1図に対応して反コモデティ化を指向すること、これが収益性向上の

指針となるでしょう。

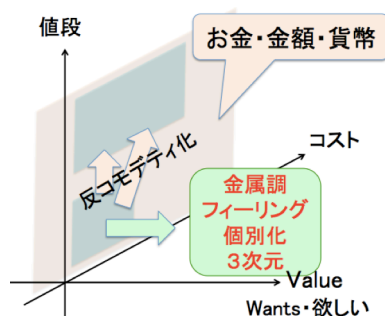
しかし、大きな留意点があります。第3図は値段・コスト平面ですが、その2つの軸はそれぞれお金・金額・貨幣で評価されます。すなわち、同じ軸なのです。お金・金額・貨幣軸で構成される平面の競争では、コスト競争力に優位性をもつ経済に対抗できません。



第3図 反コモデティ化

4つのトレンドと反コモデティ化

第1図と第3図の対比から、加飾の4つのトレンドは、反コモデティ化であると捉えられるでしょう。しかしながら、もう少し解析を進めましょう。第4図に、お金・金額・貨幣平面に対して垂直方向の価値軸を取った3次元を考えたい図を示します。コスト競争力に優れる経済に対して、異なる競争軸を設定するのは、それが価値（Value）

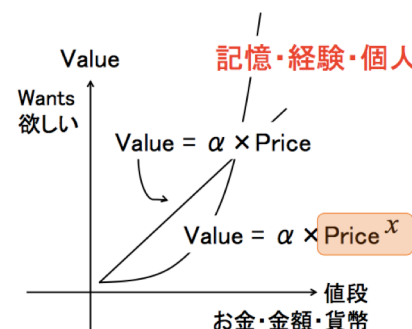


第4図 価値軸による高収益化

軸でしょう。加飾によって高収益を望むなら、本稿で述べてきた反コモデティ化に限らず、価値軸方向に指向することが重要であることがわかります。

記憶・経験・個人、そして物語を提供する

加飾として価値を付与することは最近頻繁に指摘されると思います。その価値とは？ 第5図に価値を考えたときの指針を提示しました。求められるであろう『価値』を付与する、もしくは創造するときに必要になる費用と、『価値』のグラフです。『価値』（Value）は値段（もしくはコスト）として、お金・金額・貨幣軸によってなんらかの増大傾向を示すでしょう。ある『価値』はお金・金額・貨幣に対して比例的に増大するかもしれません。できるなら、『価値』の増大は、第5図に示すように、累乗的に働くことが求められるでしょう。『価値』としてマテリアル・物質的なものではなく、人の記憶・経験・個人的な嗜好に働きかけるものが好ましいと考えられるでしょう。比例



第5図 価値の極大による高収益化

的变化ではなく、累乗的に作用すると思います。

そう、人の記憶・経験・個人的な嗜好として、『物語』を付与する、もしくは提供すること、このような付加価値であればきっと極大化するでしょう。人の想いは無限なのです。

自己実現の欲求

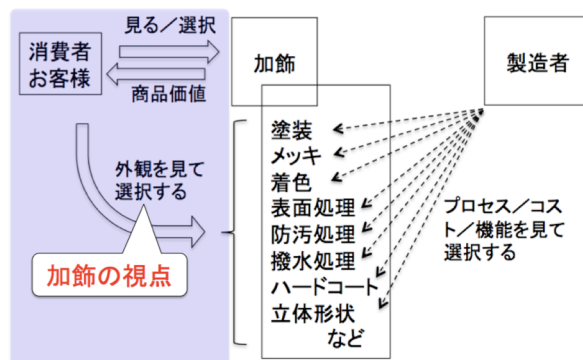
第6図に興味深い図をご紹介します。これは2014年始めに日経エレクトロニクスに付属していた、川口盛之助氏による「人・社会・技術」の視点で俯瞰した今後の「価値」という記事に使われていたものです。とても興味深く思ったところは、たくさんの国や経済を、その成熟段階を横軸（日本の状況）にして比較していること、そしてそれぞれの段階の主要な欲求をいわゆるマズローの欲求解析と照合していることです。図に示されているように、一人当たりのGDPが1万ドル程度の頃、需要は大きかったのです。この時代、日本では団塊の世代の方々が最も旺盛な消費者であったのかもしれません。高度経済成長の時代では経済のパイが大きくなり、そのパイの分配を受けた団塊の世代もまた、豊かになったのです。その昔は、供給者優位です。つくれば売れる時代であったのです。良き時代であったでしょう。そして、時を経て近年は、いわゆる豊かな社会です。第6図に示されるところの、自己実現を欲求することになるものと思います。

加飾技術

加飾が提供する『価値』が『物語』性を増やしていくの

であれば、それを効率的に実現するためには技術から切り離すことが求められます。しかしながら、製造技術にこだわるのでは供給の柵（しがらみ）に捕らわれてしまうかもしれません。

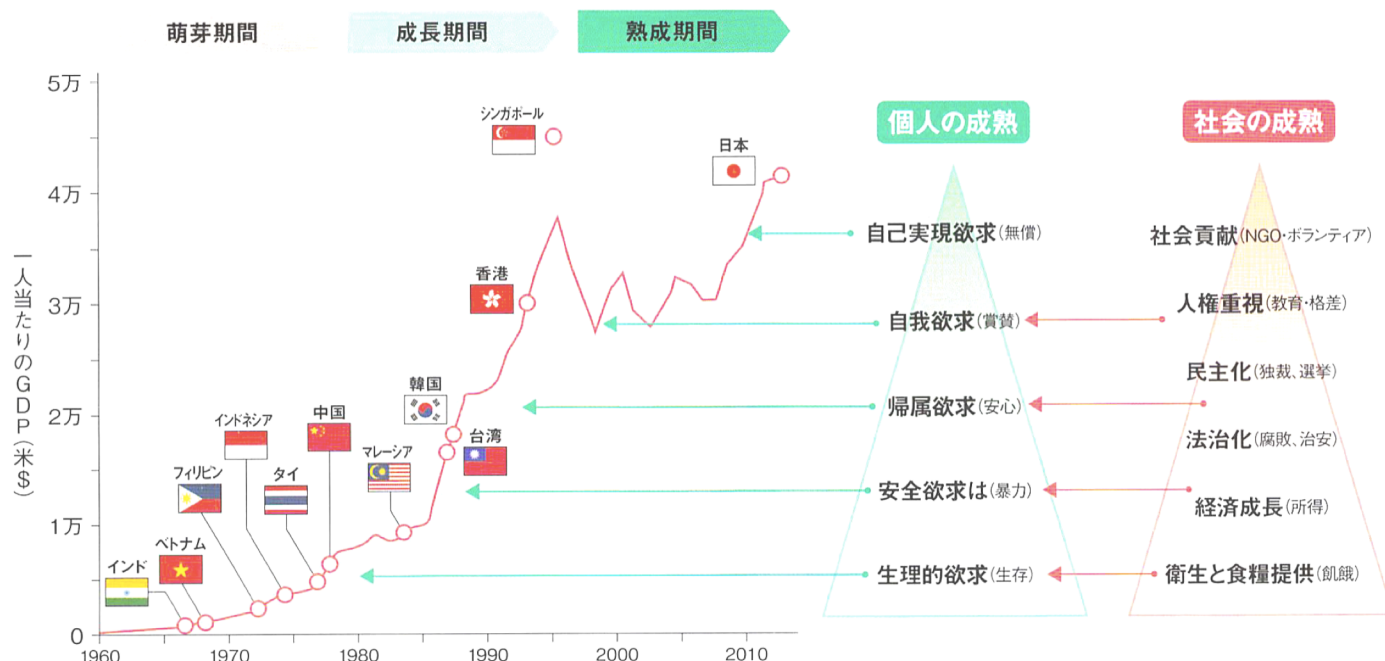
第7図に加飾技術研究会レターV○1. 3, そしてV○1. 15に紹介した図を再度掲載します。この図は、ユーザー・消費者・お客様が求めるものを適切に提供すること、これが付加価値であって、加飾の提供するものであることを示しています。加飾技術は、決して“塗装”や“メッキ”や“フィルム成形”の『技術』ではありません。ユーザーの求める『価値』・『物語』を創造することでしょう。



第7図 ユーザーから見た加飾の機能

ぜひ、ユーザーのための付加価値を主としたアプローチへと転換しましょう。そして、付加価値、すなわち利益の潤沢な事業構築へと進展するのです。高収益は、高い満足（所有欲を満たす）と両立します。

図3 個人と社会の成熟段階の関係



* 図はWorld Bank(1979年以前),IMF(International Monetary Fund)(1980年以降)のデータを基に著者が独自に集計し分析した。

第6図 個人と社会の成熟段階の関係

(川口盛之助,「人・社会・技術」の視点で俯瞰した今後の「価値」,日経エレクトロニクス2014年1月)

表面装飾創新技術セミナー

代表理事 平野輝美

中国・上海でセミナーにて講演しました。3年前から毎年同じ頃に上海を訪問していますが、年々経済的な発展を感じます。今年は、センチュリー・マートという日本資本の

量販店に行って、びっくりしました。この店はまるでウォルマートのようでした。価格もアメリカなみでした。ということは、少なくとも上海ではアメリカなみの収入を得ている人がたくさん居ることでしょうね。ということは、加飾もまたアメリカなみの考え方が求められるシーンもあり得るということです。

写真は、セミナーの様子です。上海は、市場としても対象とすべきでしょう。



研究会活動計画

事務局

2014年度は新規巻き直して、独自の研究会開催を計画したいと思います。皆様、ご支援の程よろしく願いいたします。

研究会

第15回研究会

6月14日, 17時～(第6回定時総会後に開催する)

第16回研究会

8月下旬に開催予定

第17回研究会

11月8日, 16時～, I P F 参加報告と加飾

第18回研究会

2月6日, 16時～, 加飾技術研究会独自開催セミナー

展示会等

産業交流展2014

本年も出展を計画します。積極的な有効活用を図ります。コンバーテック2015

主催：加工技術研究会の大規模な展示会です。2015年では、一部に加飾の専門エリアを計画いたします(計画)。この運営を支援いたします。

海外活動

昨年に引き続き、発展著しい中国エリアの活動を進めます。また、東南アジア等にも連携を高めようとして計画しております。

皆様、ご支援の程よろしく願いいたします。

編集後記

消費税増税の影響が懸念されましたが、もそれほど大きなものではなかったように思います。日本経済も活性化しつつあるように思います。加飾を活用して、高収益を期待しましょう。

加飾技術研究会事務局紹介：株式会社GGK/創造工学研究所内にて活動させて頂いております。ご入会申し込み、質問、その他何でも、メールにてお問い合わせください。e-mail info@kasyoku.orgです。地図を載せます。右端の駅が新橋です。上が東京方向です。近くまでお越しの際はぜひお立ち寄りください(訪問前には電話をご一報ください。090-3694-7864です)。



加飾技術研究会

会長：前田秀一, 事務局：平野輝美

連絡先：平野技術士事務所

☎/FAX 03-3504-2600

所在地：105-0003 東京都港区西新橋二丁目8番1号

ワカサビル 創造工学研究所内

平野技術士事務所 代表 平野輝美

おくづけ 加飾技術研究会ニュースレターVol. 17
発行年月 2014年7月1日
発行者 加飾技術研究会 代表理事 平野輝美
☎090-3694-7864
e-mail info@kasyoku.org
年4回発行 季刊 定価250円